

☆教皇が主任司祭に、「同棲状態の若者を見捨てないで、そばに付き添って」☆

Zenit – Roma 2017年2月25日。「主任司祭は、教会の中で人々の最も近くにいる存在です。つまり、家族や同棲のカップル、教会外で結婚した夫婦、離婚者、結婚を望んでいる若者たちの最も近くにいる人です。ですから、自らの証とそれらの人々に助けの手をさしのべることによって、あらゆる状況を生きるあらゆる人々の旅の伴侶になるように、これらのテーマを深く考察してください」

2月26日土曜日、主任司祭のためにロタ・ロマーノ（控訴院）が主催した新しい結婚訴訟についての講習会の参加者たちに、教皇フランシスコはこのように述べた。

また主任司祭たちに、結婚より事実婚を選択する若者たちの近くにいるように勧めた。「彼らは、霊的・道徳的面上においては、貧しく小さな人々の中に数えられる人たちで、教会はイエスの模範にならば、その種の人々を見捨てるのではなく、心配しそばに付き添おうとする母になりたいと思っています。・・・これらの人々もキリストのみ心によって愛されているのです。彼らに対し優しさと同情の目を向けるようにしてください」

これらのテーマは「結婚と家族」についての世界司教会議で真剣に考察され、使徒的勧告『愛の喜び』で調和のとれた形で説明された。その教えを家族との日々のつきあいの中で実践するのは主任司祭の勤めです、と教皇は付け加えた。

そのほかに「夫婦関係の深刻な危機のために、再び信仰を活性化させねばならない夫婦、秘跡の恩恵を再発見せねばならない夫婦、時には結婚の無効宣言の調査の相談をしに来る夫婦にも寄り添う必要がある」

教皇はさらに「あなた方よりも社会の現実と接触し、その実情を知っている人は誰もいません。社会の多様で複雑な現実、すなわちキリストにおいて結婚した夫婦、事実婚のカップル、教会外で結婚した夫婦、破綻した夫婦、幸せな家族や若者、不幸せな家族や若者などを一番よく知っているのはあなた方です」と主任司祭たちに呼びかけ、各自の模範と助けの手をもって、「あらゆる状況にあるすべての人の旅の伴侶」になるよう招いた。

また一人の男と一人の女による結婚がキリストと教会の一致の印であることを宣言し、「結婚の秘跡の恩恵がどれほど素晴らしいか、教会と社会の細胞である家族がどれほど大切か」を証するようにも招いた。

「その証は、具体的には結婚前の二人によい準備をさせるときになされます。彼らが今から踏み出そうとしている一歩がどういう深い意味を持っているかを理解させるときに。いつも信者の夫婦に思いださせてください。結婚の秘跡において、神はいわば二人の中に自己を現し、自己の像と愛の消えない印章を刻みつけられるということ」。